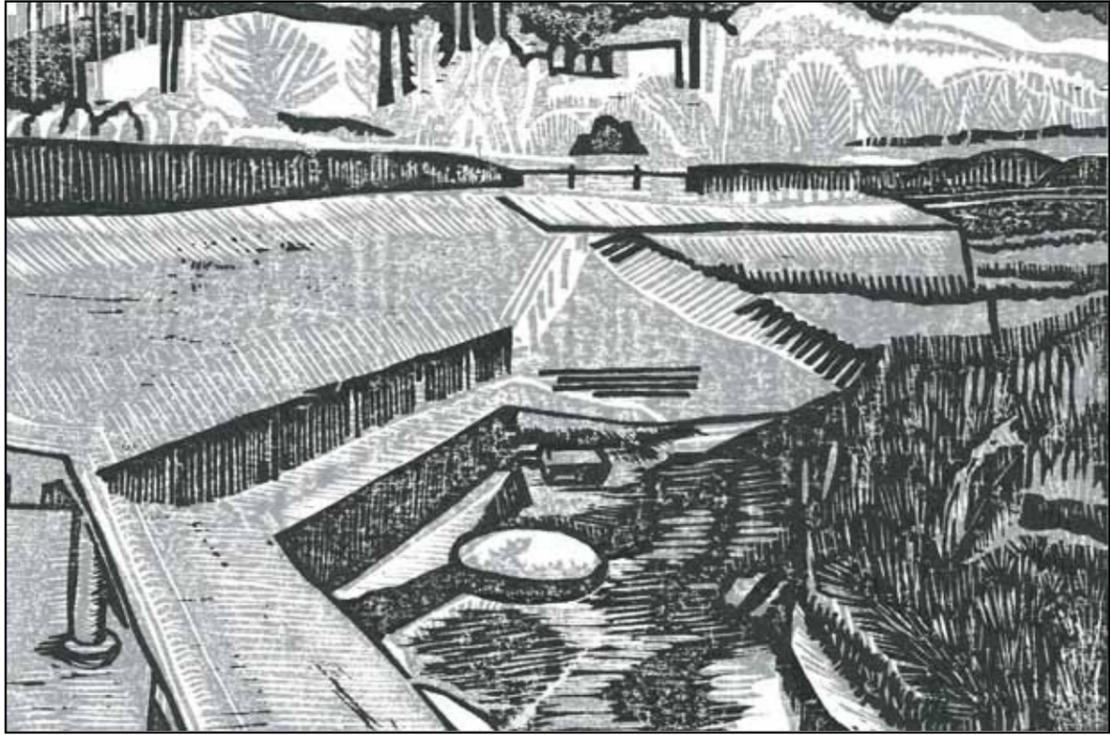


いたちかわらばん

通刊69号

鮠川・狹川 / 川原番・瓦版

'15春号



【版画 宗森英夫】

石原の水辺の広場（石原橋下流）

調布市の多摩川近くから横浜市の上郷市民の森の麓に住むようになってから三十八年が経ちました。市民の森の展望台からの富士山展望を日課にしている私は展望台から改めて周辺を見渡しました。

移住した当時、一面森だった北側斜面の中には真新しい山手学院の校舎が見えるだけの風景でした。現在は樹林地の斜面はきれいなマンションに変わり、周囲も住宅地になり、本郷ふじやま公園の森を除いては森らしい緑地を見ることができないほどの住宅地に変貌しています。

移住した当時のいたち川沿いには遊歩道はなく、水田が見られ、ポリバケツを持ちあぜ道・土手道を歩きながら子どもとザリガニ捕りをしてあそんだ記憶があります。現在の本郷車庫周辺は特にきれいな水田が広がっていました。

尾月住宅から石原橋に続く階段の道は梅林と竹ヤブの中に通じていましたが、石原橋がまだなかったのが道は川の手前で行き止まりでした。なぜここに通路がつくられたのだろうか？と疑問を持ち、古い地形図で見ますと、現在の石原橋の所が対岸の県道との間隔が特に狭いこと、下流域が広い遊水地になっていて河床が浅く容易に川を渡れた場所になっていたものと思われまます。左岸一帯が宅地になる以前の地形を古い地形図から読み取ると、小規模な棚田風の水田だったことが読みとれます。想像ですが、この浅瀬を渡って山間の畑や水田に通った生活道路だったものと思われまます。

（上郷森の会 木村賀数）

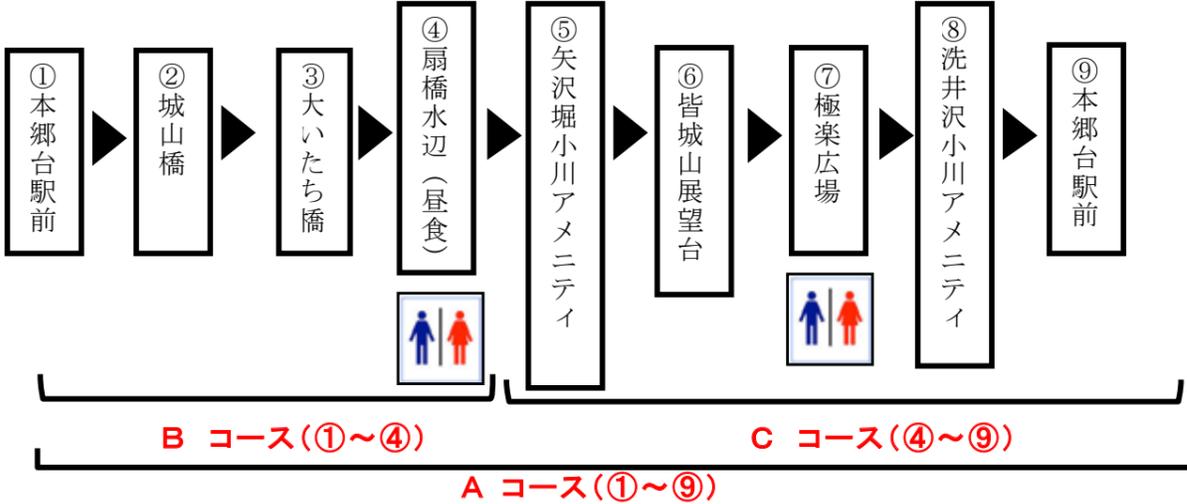
想い出

春のいたち川ハイキング 参加者募集

いたち川に沿って植栽された植物やお花見をしながら、周辺の史跡を訪れてみませんか。今回のハイキングコースは、川づくりの解説や、川縁に繁茂する野草、散策路の樹木などを説明しながら、周辺に点在する史跡や寺院などを案内いたします。また、いたち川の左支川（洗井沢川）では、地層や湧き出る水流を確認する源流探査をしてみませんか。

矢沢堀小川アメニティ以後のコースには階段や急な坂道があります。Aコース（全区間）、Bコース（午前で解散）、Cコース（午後1時より）の3コースの中からご自身に合ったコースを選択してください。

お子様（小学生以下）が参加する場合は保護者の同伴をお願いいたします。



- 【日 時】 平成 27 年 4 月 25 日（土）AM10:00（集合）～ PM3:00（解散予定）
- 【集合場所】 A・Bコース参加者は本郷台駅前広場 Cコース参加者は1時に扇橋水辺（六反町公園）
- 【持ち物】 昼食、飲み物、敷物、雨具
- 【その他】 雨天の場合は中止します。
- ※当日判断に迷った場合は8時から8時30分までに下記の携帯電話で確認してください。
- 【参加費】 100円（保険代含む）
- 【募集人数】 30名程度（応募者多数の場合は抽選）
- 【参加要領】 参加希望者は、葉書、メール、FAXで参加コース・住所・氏名・性別・電話番号（子供同伴の場合は子供の年齢）を明記の上、4月10日までに応募してください。（当日消印有効）
- 【応募先】 〒247-0005 栄区桂町 303-19（電話）0498-0552（FAX）894-9127
sa-kikaku@city.yokohama.jp
- 栄区役所区政推進課企画調整係（いたち川ハイキング担当）宛
- 【問合せ先】 担当・和久井（携帯）080-3498-0552

発行年月 2015年3月 通刊69号

発行：狹川IOTASUKE隊（いたちがわおたすけたい）
 OTASUKE隊事務局：栄区役所区政推進課企画調整係 〒247-0005 横浜市栄区桂町303-19
 TEL 045-894-8161 FAX 045-894-9127
 栄土木事務所下水道・公園係 〒247-0007 横浜市栄区小菅ヶ谷1-6-1
 TEL 045-895-1411 FAX 045-895-1421
 （お便り・お問い合わせはこちらまで）

切り取り線
この部分を切り取ってファイルにすると便利です

花粉症を引き起こす原因植物とその性質

春になると日本人の5人に1人が花粉症に悩まされていると言われております。

花粉症は植物の花粉で引き起こされるアレルギー症状のことを言います。春先の針葉樹科のスギ花粉やヒノキ花粉、夏のイネ科のカモガヤ花粉、ホソムギ花粉、秋のキク科のブタクサ花粉、ヨモギ花粉等が原因であると言われております。

花粉症を引き起こす花に共通していることは、全て風によって受粉する風媒花であることです。小さな花粉はゴルフボールのように表面がギザギザで凹面があり、風にのると80kmから200kmまで飛散すると言われております。

スギやヒノキは雌雄同株（しゅうどうしゅ）で雄花と雌花が別々の箇所に花が咲き、自家受粉を避けるために「雄性先熟」で花粉をすべて放出してから雌花が咲き、他の株の花粉を受精し、より強い子孫を求めて多様な環境に生き抜く戦略をとっていると考えられております。よって雄花が咲く時期に花粉が風に乗って散乱するため、花粉症の人を悩ましているのです。

夏のイネ科の植物は、開花が6月から8月で湿度が高いこともあり、飛散距離は数kmと被害は多くありません。カモガヤ、ホソムギは雄しべ、雌しべを備えた「両性花」ですが、花粉をまき散らした後に雌花が成熟して、他の花からの花粉によって受精が行われます。

秋のブタクサ花粉は8月から10月がピークで、スギ花粉の半分くらいの大きさで気管支に入りやすく喘息になりやすいのが特徴です。喘息草とも呼ばれており、スギ花粉に次いで多い花粉症の原因になっております。

いたち川にも繁茂しているセイタカアワダチソウは、虫媒花で花粉が重く、飛散距離も10m位で花粉症の原因にはなりません、花の中に飛び込んで花粉を浴びると花粉症になることがあると言われております。

山河のハイキングには、周辺植物の特性を理解して予防を行い自然との共存に努めたいものです。

風媒花：風によって媒介する花で花粉は大変軽く小さいのが特徴。

虫媒花：昆虫の媒介によって受粉する花。花の色が美しく匂いが強かったり蜜を出すものが多い。

鳥媒花：冬期など昆虫が居ない時期でツバキ類やビワなど冬に花が咲く植物。

(水・人・子)

関東周辺での花粉症の原因となる植物の開花時期および飛散時期

主な原因植物	開花時期及び飛散時期											
	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
スギ												
ヒノキ												
イネ科(カモガヤ、ホソムギ等)												
キク科(ブタクサ)												
キク科(ヨモギ)												

紅葉橋下流の水辺（仮称）が新しくなりました

紅葉橋から下流およそ150m間にきれいなせせらぎの水辺があるのをご存じですか。川の左岸は上郷市民の森から続く孟宗竹の北端が川辺まで続き、竹林とケヤキの大木が混在して水辺を覆うように植えられています。

せせらぎの川幅は10mほど、右岸には上下二段の遊歩道が造られていて、上の段の遊歩道の周囲にはクヌギ、コナラ、ケヤキ、シラカシ、グミなどの雑木が植えられています。水辺の通路（下の段）は水辺から50cm～1mの所が通路になっており、道幅1m前後の通路になっています。

今回の紅葉橋下流右岸の整備に伴い、通路の両側にはシャガ、シランなどの地被植物、ヒメシャラ、ヤブラン、ミズヒキ、テイカカズラ、ツルニチニチソウなどの野草も植えられ野草愛好家にとっては特に魅力的な水辺が完成しました。

いたち川のほかの「水辺の広場」に比べると面積は小さな広場ですが、川の左岸を覆うような竹林の下を流れるせせらぎは風情を漂わせ、ほかの水辺では見ることのできない趣のある水辺です。川の右岸は民家に囲まれていて道路から隠され見えにくい場所にあります。

この水辺では数年前から竹林のなかに植わっているケヤキの大木が枯れる現象が度々みられ、川に倒れこんだケヤキの大木を取り除く作業に苦労されていた様子でした。ケヤキが枯れるのは樹の寿命なのか、ケヤキが植わっている中に、竹が後から入り込んできたためにケヤキが弱って枯れるのかは不明ですが、……。

今回整備された所は紅葉橋横から入る入口に12m四方の広場を設け、広場の中央に休憩用のベンチが造られました。ベンチの周りには桜、コブシ、モミジ、ヤマモモなどの樹が植えられ、手押しポンプも新しいものに取り替えられました。また、入口から直接水辺に下りられるように階段が工夫され、いっそうモダンな水辺に生まれ変わりました。平成22年に新しくなった紅葉橋と一体化された様になりました。上流の工事が終了するといっそうきれいなせせらぎがみられるようになり、素晴らしい場所になることでしょう。

(モモンガ)

